

nakcazawa

『はじめて考えるときのように』1回目のプレゼン（尾崎・橐田・三木）に関するスレッドです。皆さん、5/22 くらいをメドに（できれば記憶の鮮明な今日中に）、コメントを付けてください。個人的には、マッチ棒のクイズで「やられた～！くやしい～！」でした。

AI（コンピューター）の強みを弱みを今のうちからきちんと理解しておくことは、今後の皆さんの人生にとって大いにプラスになると思います。このあたりに興味のある人は、新井紀子『AI vs. 教科書の読めない子どもたち』の一読を奨めます。

高本恭吾

マッチ棒のクイズが印象的だったが、先生も最後に言っていたように、16本のマッチで四つの正方形を作ろうと思ったらそれぞれ独立した形でなければならないから、必然的に形が決まってくるという部分で、論理的に考えることの重要性を改めて感じさせられた。

論理的に考えなさいと指示されなければ自分は論理的に考えられていなかったのだと改めて思いました。

籠谷郁吹

難しいお題に対して、よく研究しており、質問がしっかりと噛み砕いて説明してくれているのでとてもわかりやすかったです。

川端 真由

グループワークによって説明がより分かりやすくなっていて、グループワークの入れ方やプレゼンの構成が上手だと思いました。

橐田進太郎

考える、ということについて考えることは今までになかった経験なのでごく哲学的だったが、本を読むにつれてこういうことかなってというのがわかり始めた時にようやくどういう授業をすればいいのかが見えてきた。質問が抽象的な部分もあったが、できるだけ理解しやすいように説明できたことは良かったと思う。あとは時間配分を個人でもう五分くらいずつ伸ばせばより良かったんじゃないかなと思った。

三木美裕理

みんなに「考える」とはどういうことなのかを説明するのは難しかった。私は哲学の本を読むのが少し苦手なので、本の内容をみんなに理解してもらうためにたくさん発表内容を考えた。もう少し説明を分かりやすくできた気がする。

新谷

グループワークで問題について、手を動かして考えるというのがおもしろかった。最近の授業で一番頭を使った。

崎山綾香

「考える」とはどういうことかという難しいテーマであったが、マッチ棒の問題などグループワークを活用しながらわかりやすく説明していたのでよかったです。

中井 美裕

「考える」や「論理思考」など議題が難しいと感じましたが、説明がわかりやすくグループワークでは実際にマッチ棒を使って考えることで、より理解できました。

清水陸人

マッチ棒の問題を使うことによって、論理思考をより深く理解することができました。難しそうなお題でしたが、とてもわかりやすいプレゼンだなと思いました。

金山恵大

論理思考という、少し難しい内容だったがマッチ棒を使うなどわかりやすく説明してくれて、理解ができました。

つちやよしき

本の表現を理解して、うまく発表に落とし込んでいるのがすごいと思った。

質問はどれも答えをうまく出せるように準備されていて、マッチ棒の問題も面白かった。

経済学部では経済を数学的に予測したり統計的に分析したりすることも学ぶが、市場経済の失敗といったことが見られるように、なんらかの要因によって理論通りにいかないことがたくさんある中で、その要因を新たに分析しようとするところが機械には難しい人間の領分だったりするのかな、と思った。

増田光樹

論理思考や考えることを題材に話していくのは難しそうだけど違和感なく流れよく説明されていた。

マッチ棒のクイズを後半に持ってきたのは最後まで聞き手を飽きさせない良い方法だと思った。

尾崎星太

テーマについて理解足らずで、グループメンバーに迷惑をかけてしまった。準備不足を反省している。

nakazawa

時間こそ少し余ってしまいましたが、最後のマッチ棒クイズを代表として、随所に工夫がこらされ、「考えるとはどうすることか？」をフロアのメンバーに体感してもらえるような、すぐれたプレゼンだったように思います。今回は欠席していた白沢くんがこのテキストに関するレポート（感想文）を書いて送ってもらったのですが、そのなかに

「クレヨンを見てパッと答えを思いついたときに「ずっと考えていた」というには若干都合が良すぎるかなとも感じた。一概に「考える」ということを表すことはできないし度合いが存在するとも感じた。」という意見がありました。ここはけっこう重要なところなのですが、今回のプレゼンではあまり触れられていませんでした。僕なりの返答はあるのですが、それが次回のプレゼン内容とかぶってしまっただけで困りますので、次回のプレゼンを見てから書き込みたいと思います。

nakcazawa

もう一人の欠席者、西川さんにもこのテキストに関するレポート（感想文）を書いて送ってもらったのですが、そのなかに

「文化祭の企画を一日中"考え"ている時があつて夜ご飯を食べながらバラエティを見ている時に突然最高な案が頭に飛び込んできました。あの時はこの本からすると、ヘウレーカ！と叫ぶ勢いで友達に連絡したのを覚えています。ずっと考えている、とは言えませんが意識の中で考える事を無意識にしているのでは無いかと思います。」

という意見がありました。「思いがけないことを発見する能力」を「セレンディピティ」と言いますが、それはクリエイティブに考える能力と言ってもよいでしょう。論理だけでは見つけられない物事の新しい結びつきを見つけるわけですから、まさにクリエイティブです。コンピューターやAIは論理的に考えるのは得意ですが、その種の飛躍的な思考はものすごく苦手なわけですね。

著者の野矢さんが「問題を抱えている」状態のことをあえて「考える」としたのは、それこそが「クリエイティブに考える」「人間らしく考える」ことにつながるからではないでしょうか。

以前に「利己的」という言葉の多義性についてゼミを行いました、「考える」という言葉も多義的であり、それを出発点として人間の思考がAIと違ってなぜクリエイティブであるのか、AIに負けない思考とはどのようなものかについて、この本は解説してくれているように僕には思われます。